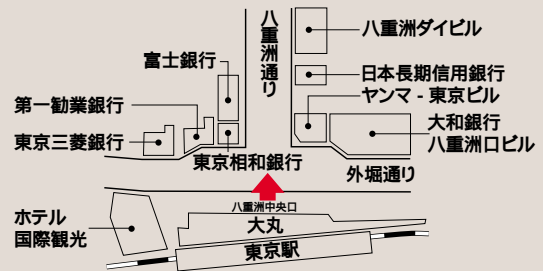


# 昭和34年「東京駅八重洲中央口」



正面に見える八重洲通りは、関東大震災復興事業の一つで、昭和4年に開通した。このとき、東京八重洲口も設けられた。

同時に現在駐車場になっている広場が、昭和22年までは江戸城の外堀で、そこに詩人・木下空太郎が設計したという橋が1本、日本橋、京橋地区とをつないでいた。

今日見る東京駅の活気は、第二次大戦後、外堀を埋め立て、昭和29年、日本一大規模な民衆駅ビルを建設したことによる。

加えて、昭和44年に350店舗収容の地下街が完成して客の流れを大きく変えた。現在、東京駅の乗降客は1日百万人を超えている。

写真で、正面八重洲通りの左にあるビルは、明治29年創業の東京建物本社ビルで、昭和4年に建設。右のヤンマーディーゼルのビルは、明治45年創業の農耕機器の代表的メーカー。東京支社は、第二次世界大戦中に、ここに進出し、店頭にいつも新型の農耕機器を陳列して都会のサラリーマンの足を止めていた。

(昭和34年5月27日)



東京都は、昨年11月に「東京再生」を重点課題としたプランをまとめた。プランの中には現在二階建ての「東京駅」駅舎を竣工当時の赤レンガの三階建てに復元することなどが盛り込まれている。その他丸の内側では、「丸ビルの建替え」や「旧国鉄本社跡地利用計画」など大規模の再開発計画が急ピッチで進められ、八重洲側でも「超高層ツインビル構想」など建築計画が順次予定されている。「日本と都の国際的地位を向上させるためにも都心の再生は急務」という石原都知事の声に後押しされて、今、新しい「東京」が創生する。(平成12年2月29日)

写真・文  
富岡畦草(とみおか けいそう)  
大正15年8月、三重県生まれ 日本写真協会、日本写真家協会、自然科学写真協会などの会員